

子ども館（仮称） 意見交換会 報告書

1. 目的

女性の社会進出などを背景に子育てと仕事の両立を目指す子育て世帯が増加する中、就業形態の多様化もあり子育て世帯への精神的、経済的な負担が増大しています。また、地域においては、核家族化により身近な人から子育てを学ぶ機会は減少している状況にあります。

このように子育てを取り巻く環境が変化する中、始良市では子育て支援拠点施設を整備することで、始良市子ども・子育て支援事業計画の基本理念である「男女が共同し、子どもを安心して生み育て、子どもが健やかに育つまちづくり」の実現に向けた積極的な取り組みを考えています。

子育て支援拠点施設整備計画に関し、施設利用（予定）者となる子育て世代や施設整備予定地（加治木物産館）周辺の住民の方々と率直な意見交換を行い、今後の始良市における政策立案・施設整備に役立てることを目的とします。

2. 開催実績

①日 時：令和2年11月6日（金） 19:00～

場 所：加治木福祉センター

参加者：18名

②日 時：令和2年11月11日（水） 10:30～

場 所：かじきっず

参加者：3名

③日 時：令和2年11月14日（土） 11:00～

場 所：始良公民館

参加者：2名

3. 意見の集約

● 整備計画について

- ・子ども館の計画について、マスコミに取りあげられてから知った。地元の間も何のことかさっぱりわからない状態。市がどのようなものにしたいのかわからない。
- ・子育て支援センターとの兼ね合いが気になる（特にかじきっず）。
- ・移動市長室にて湯元市長から子ども館の話があった。約4億ともいわれる事業費には市民の血税も含まれている。情熱を持って取り組んでもらわないと4億というお金が無駄になってしまう。
- ・ランニングコストはどのくらいを見込んでいるのか気になる。
- ・りぼん館をイメージすると、始良市に同様・同程度のものが整備されれば良いと思う。しかし、建設予定地とされる加治木物産館の敷地だけでは少し窮屈ではないかと思われる。
- ・利用料金について気になる。

● 設備について

- ・子どもたちに来てもらいたい施設なので、ハード面を魅力あるものにすることは重要である。
- ・全身を使って遊べる遊具（大型遊具）があると良い。
- ・クライミングウォール等の発達状況が確認できる遊具を設置するのが良い。
- ・年齢別のゾーニングが必要。
- ・食事ができるところがあると良い。
- ・電子レンジがあると非常に有難い。
- ・子どもは砂場が好きだが、公園の砂場には衛生面も気になり連れて行き切らないので、りぼん館のような屋内の砂場があると良い。
- ・駐車場はベビーカー等の積み下ろしのため、ゆったりスペースだと良い。

● 機能について

- ・ソフト面で魅力ある施設にするには、保護者が気づいていない問題に目が行き届く専門員（PT、ST、OT等）配置する必要がある。
- ・専門員の配置によって相談機能の充実を図ることができる。
- ・相談が解決まで至っていないケースがしばしばある。しっかりと解決に導くための継続的な支援を行う必要がある。
- ・子育てに関連する様々な対象（保護者、プレパパ・プレママ、教員、保育士等）に向けたイベントや講座の実施が望まれる。
- ・コロナ禍で今はむずかしいと思うが、製作等のイベント・講座があると良い（自宅で工作・製作もできないことはないが、材料の準備が大変でハードルが高く、実際にはなかなか自宅で取り組むことがないため）。
- ・一時預かりはぜひ作ってほしい。
- ・イオンタウン始良に一時預かりがあるが、保育所に落選した方々で予約がいっぱい（意見交換会参加者談）で急なニーズの際は苦慮する。一時預かりが子ども館にできると助かる。
- ・相談したいことがあっても相談のためだけに、専門相談窓口に赴くのは新型コロナウイルスもあり二の足を踏んでしまう。
- ・相談だけするとすると、その間子どもを預けないといけないかなと考え、なかなか相談窓口まで足を運びきらない。
- ・あいあい・かじきっずのように子どもを遊ばせる延長線上で、「日常会話（立ち話等）→施設の支援員等と別室で相談→必要に応じて専門窓口」と何気ない所から段階的に相談に繋がると良い。